

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的で安らぎのある生活を送っていただくために日々の支援を行っている。理念については皆が見える場所に掲示し職員間で共有をしている。	理念については玄関ホールに掲示し共有と実践に努めている。家族に対しては利用契約時に理念に沿った支援について説明している。職員については毎月の定例会議で理念に合わせた利用者個々のケアについて話し合い取り組んでいる。言葉遣い等、理念にそぐわないような時には個別に指導している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加し情報収集し行事に参加している。併設している他事業所や社協のイベント(ふれあい祭り)、地域活動支援センターと七夕会、新年会など交流をしている。	自治会費を納め地域の一員として活動している。回覧板で情報を得て、特に中央公民館で開催される行事については積極的に参加している。年末の「しめ縄」作り、月1回開かれるボランティア主催の「子供食堂」、社協主催の福祉大会等に参加し地域の皆様との交流を深めている。また、中学生、高校生の福祉体験の来訪が5名ほどあり、レクリエーション中心に交流している。合わせて、大学生の職場実習も引き続き行われ、傾聴中心に行われている。更にOB職員の来訪があり、布を使つての「お手拭」作りも定期的に行われ、利用者の楽しみの一つとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	各種の行事や事業所の便り、施設周辺の散歩等を通して認知症の理解を深める機会を設けている。また地元の中学生、高校生の職場体験や大学生の実習の受け入れ、認知症の人の関わりを伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設している小規模多機能居宅介護事業所と合同で2か月ごとに開催している。委員には社協職員、保健福祉課長、各事業所のご家族、区長、地域の方が参加しており、率直な意見を頂いている。	グループホーム家族代表、小規模多機能型居宅介護家族代表、区長、民生委員、地域代表住民2名、役場保健福祉課職員、ホーム関係者の出席で2ヶ月に1回、併設の小規模多機能型居宅住宅と合同で開催している。利用者状況報告、行事報告、意見交換等が行われサービスの向上に繋げている。管理者も変わり運営推進会議への参加、行事に合わせての実施等、進め方の検討をする予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営協議会に参加していただき、事業の説明、現状を伝え協力関係を気づくように努めている。	社会福祉協議会とは様々な事柄について相談している。介護認定更新調査は調査員がホームに来訪している。社協主催の救急救命の「AED」研修や感染症研修に参加しホーム内での徹底に努めている。他事業所との「ふれあいサークル」にも加入し情報交換を行い業務の向上に役立っている。	

社会福祉法人軽井沢町社会福祉協議会くにちゃん家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認知症の進行により、状況に応じてご家族に同意の上身体拘束を行っている。それについては毎月定例会にて検討し、認識を共有している。最近では身体拘束を短くする取り組みもしている。	玄関は日中開錠されている。外出傾向の強い利用者がいるが話をし納得して頂くようにしている。現在車イスからの落下危惧のある方がおられ、家族の同意を得て落下防止ベルトを使用している。また、転倒危惧のある方も数おられ、足元センサーを使用し安全確保に心掛けている。所在確認については職員が必ず1名はホールに居るようにし、きめ細かな所在確認に取り組んでいる。月1回身体拘束適正化委員会を開き、拘束を短くするための意識を高め取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修に参加したり、虐待について全職員で情報を共有することに努めている。また、利用者に対する言動についても注意し接するようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修になるべく行くように努めて、職員間でも制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には施設見学をしていただき、事前に不安な点、疑問点を聞き出すようにしている。契約の際にも十分に時間をとって分からないところがないように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所された際には日々の利用者の様子を伝え、情報を開示している。意見や要望はその時にも聞いており、また家族会を2か月を1回を目途に開催しており、家族と話す機会を設けている。	利用者の思いは家族からお聞きした過去からの生活歴も参考に、発言の内容、仕草、行動等から思いを受け止め支援に繋げている。家族の来訪は2週間に1回から月1回位の状況で、来訪の際には細かく状況についてお話している。また、2ヶ月に1回家族会を開催し、春にはおやつ作り、夏にはバーベキュー、スイカ割、秋にはハロウィン大会等で楽しい1日を過ごしている。合わせて誕生日会には豪華な昼食プラス3時のおやつにケーキと誕生日カードでお祝いしている。また、2ヶ月に1回発行されるお便り「悠々だより」でホームでの生活の様子を家族にお知らせしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例会を開き、利用者のことだけでなく、職員の意見等も聞くように努めている。本部には係長会議を通して意見を伝える機会もある。日々の業務の中でも職員とコミュニケーションをとり、その都度運営に関する話もしている。	毎月月初、併設の小規模多機能型居宅介護の職員も出席の上定例会を開き、業務全般、運営について、行事関係、利用者個々のカンファレンス、意見交換等を行い意思疎通を図っている。職員は年度目標を立て自己評価を行い、年1回、社協係長と局長による個人面談が行われ評価と合わせ悩み事相談、異動希望等が聞かれている。合わせて法人による職員のストレスチェックも行われている。	

社会福祉法人軽井沢町社会福祉協議会くにちゃん家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は評価基準に基づき職員を評価している。また、全職員に対して個人面談をする機会を設けており、意見、思いを聞いてもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度毎に研修計画を立て、社協全体の勉強会への参加、県・及び団体への研修参加の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社協全体で懇親会や新年会を開催し、同業者で交流する機会を設けている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から希望や要望を伺い、意思が伝えられない方には家族等から情報を頂き、本人の思いを実現できるように傾聴に努めながら関係作りを目指している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの経緯や要望等の聞き取りを行い、納得のいくサービスが提供できるような関係作りをしている。家族会を開催し家族同士の交流ができるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の生活への思い、関わり方等を共に考えて必要なサービスができるよう職員も又共有意識を持ち支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の今まで培ってきた生活を考えながら興味が持てそうなことや得意なことを考えて各利用者に合わせた内容を提案し共に行いながら過ごす時間を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子を家族に伝え、変化があった際にはその都度連絡、相談をしている。家族が来所された際には一緒にお茶を飲みながら普段の様子を伝え、本人の様子もみていただき、情報を共有し家族の協力も得ている。		

社会福祉法人軽井沢町社会福祉協議会くにちゃん家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事の参加、外出で馴染みの方との会話を心掛けたり面会に来られた方と一緒にお茶を飲んでいただく等来所しやすい雰囲気作り心にかけている。	友人、元同僚、親戚、お孫さんの来訪がありお茶をお出しし寛いで頂いている。家族と電話のやり取りをされている方や家の様子を見に帰る方もいる。また、季節の変わり目には近くの馴染みの洋品店に買い物に出掛けている。本年年末には利用者個々の年賀状を作成し家族に発送予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の状態や必要に応じて職員が間に入り、利用者が関わり合い生活できるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までの関係性の継続に向けて、気軽に立ち寄りいただける雰囲気を大切にしている。相談に来られた際には必要な機関への紹介などを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が隣で寄り添い交流をし本人の希望、意向の汲み取りに努めて家族からも情報を得て意向の実現に向けて話あっている。	思いや希望の表出が難しい方がおられるが表情や仕草から好みを判断し、洋服選び、飲物選び等二者択一の提案も含め、意向に沿えるよう寄り添っている。入浴時やおやつ時にはそばに寄り添い1対1で話しをする時間を大事に、希望を受け止めるように心掛けている。日々の気づいた言動等は生活一覧表に纏め確認し合い支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族からの聞き取り以外にも面会に来られた親族や知人に話を伺っている。少しずつだが、センター方式を使ったアセスメントも実施している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタル測定を行い、表情・動作・言語等の観察を欠かさず、生活一覧表に記入すると共に職員間の申し送りにて情報の共有と心身の状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	くにちゃん家の定例会において各利用者の様子を確認し改善点等話し合いをし情報を共有している。計画策定者が参加できない場合は報告し介護計画に反映してもらっている。	月1回の定例会では全職員が意見を出し合いモニタリングを行い、計画作成担当者中心にプラン作成を行っている。長期目標は1年で設定し状態に変化が生じた時には随時の見直しを行っている。家族の希望は来訪時にお聞きしプランの中に反映させている。	

社会福祉法人軽井沢町社会福祉協議会くにちゃん家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活一覧表や個別記録表に日々の様子や気づきを記入している。個別記録表を参考にしながら定例会で話し合うことに反映し、職員と情報共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族と事業所でお互いが協力できることを見極めながらできる限り柔軟な支援を行っている。例：家族が忙しく、利用者の洋服を用意できない→職員と一緒に買い物に行く等		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事の参加・併設している事業所と合同行事、ボランティアの方々を招いての行事も行い、地元中学生の体験学習にも協力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的なフォロー、症状変化等に速やかに受診できるよう、主治医と連携をとっている。特別に変化があった場合は家族に連絡をとり、必要によってはカンファレンスを開いている。受診に同行できない利用者に対しては、主治医へ生活記録の送付を行っている。	利用契約時にかかりつけ医についての希望をお聞きしているが、現在はホーム協力医の月2回の往診で対応されている方が三分の二、入居前からのかかりつけ医利用の方は家族が受診対応し受診の際には食事や友人の所に寄られ楽しんでいる。緊急時には管理者に情報が一本化され、オンコール対応の協力医と連携し万全な対応が取られている。歯科については必要に応じ、かかりつけ医の受診で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	それぞれの気づきや困りごとをタイムリーに共有し相談、支援へ繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要時サマリー等について、地域連携室や病棟の看護師や医師と連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けて、契約時に事業所での支援内容を説明している。症状が変化した場合は主治医を中心として、家族、職員でカンファレンスを開いている。	重度化、終末期に向けた指針があり利用契約時に説明している。終末期に至った時には家族、医師、ホームで話し合いの時を持ち家族の希望をお聞きし方針を纏め医師の指示の基、看取り同意書にサインを頂き看取り支援に取り組んでいる。最近の2年間に3名の看取りを行い家族より感謝の言葉を頂いている。看取り後は職員間で振り返りの時を設け不安を取り除き次回に繋げる様気持ちを一にし取り組んでいる。	

社会福祉法人軽井沢町社会福祉協議会くにちゃん家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社協主催の救急法の勉強会に参加し技術向上の努めている。有事の際には主治医や医療機関と連携している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練計画に基づき、併設している事業所と合同で行う訓練を消防署の協力と得て行っている。また、老人福祉センターと声を掛け合い、避難訓練を行っている。	年2回防災訓練を行い、春には併設小規模多機能型居宅介護と合同で、秋には運営推進会議メンバー参加の下、隣接の老人センターも含めた訓練を行っている。消防署参加で火災想定での消火訓練、避難訓練を行い、利用者を外へ移動し、併設施設まで避難する訓練を実施している。合わせて通報訓練、緊急連絡網の確認を行い、夜間想定訓練では職員の行動確認を行って防災への意識を高めている。備蓄は「水」「レトルト食品」「缶詰め」「お米」等が半月分準備されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	否定的な言葉は慎み、できるだけ会話は共感、同調する。職員同士言葉使いには気を付けるように心かけている。	利用者の尊厳を守り、言葉遣いには特に気をつけ、否定的な言葉使いをしないよう心掛けている。居室でのプライバシーにも配慮し居室で過ごされる時間の多い方の入り口には「のれん」を付けている。呼び方は基本的には名前を「さん」付けでお呼びしているが、レクリエーション等の時には利用者との信頼関係の上、親しみを込め「ちゃん」付けでお呼びすることもある。定例会の席上、「プライバシー」についての話し合いを行い、意識し気持ち良く過ごしていただくよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の日常の会話や行動に気を配り本人の主張をできるだけ優先できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の体調や健康状態をみながら一人一人のペースを尊重し無理のない生活を送れるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の洗顔や整容はできるだけ本人に行ってもらおう。細かいところはさりげなく介助をする。季節や気温に合わせた本人が気に入った服装をしていただく。		

社会福祉法人軽井沢町社会福祉協議会くにちゃん家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる人には下準備を手伝ってもらい、それを食事の時に出して食べてもらう。季節を感じられるよう旬の食材を使い、行事や誕生会では特別メニューを提供している。	自力で摂取できる方が三分の二、一部介助と全介助の方が若干名ずつという状況である。調理スタッフが週3~4日間、昼食、夕食の調理を担当し、献立は利用者の希望も聞きながら冷蔵庫の食材を確認しながら前日とダブらないよう心掛け調理している。利用者は力量に合わせて下準備から片付けまで楽しみながら参加している。誕生日には希望を聞いてお好きな物をお出しし、敬老会にはバイキング料理を楽しみ、年末年始、クリスマス等には季節に合わせたものをお出ししている。また、月に1回は「餃子」「焼売」「ロールキャベツ」等の食材の作り置き作業を全員で楽しみながら行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活一覧表に一日の摂取量・水分量を記録し、健康状態に合わせて食事形態や食事量を調整している。個々の嚥下機能、咀嚼機能に合わせてミキサー食やみじん切りにして食事を提供している。カロリーは1日1500kcalくらいでバランスよくを心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けをし介助が必要な方は支援している。入れ歯の方は1日1回洗浄剤を使用し、口腔内、入れ歯の清潔に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活一覧表で個々の排泄パターンを把握し声かけやトイレ誘導をしている。排泄の動作に関わるズボンの上げ下げのしやすさや便座との距離には特に配慮している。	一部介助の方が三分の二、全介助の方が三分の一という状況である。生活一覧表を用いパターンを把握し定例会で確認し合い個々のパターンに合わせて声掛けを行いトイレでの排泄に繋げている。排便促進を図るため、個人別の水分摂取量を把握し、個々の状況に合わせて「水」「お茶」「牛乳」「ヨーグルト」等の摂取を進めると共に体操で体を動かすよう進めている。また、パットの大きさ、きめ細かな声掛けを行うことで介護用品の費用削減にも取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容や水分摂取量、運動(活動)に留意しても便秘になる時は主治医に相談して指示を仰いでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決まっていないが、日中の入浴を2・3日おきに実施している。湯舟では肩まで浸かって温めてもらう。その際にはリラックスされ会話が弾む。	全利用者が介助が必要な状況である。基本的には週2回の入浴を行い、皮膚トラブルのある利用者については3回の入浴を行っている。入浴拒否の方がいるが誘い方を変え、日を変え、対応している。また、重度化した際の入浴については併設施設の特浴設備が使用可能となっている。	

社会福祉法人軽井沢町社会福祉協議会くにちゃん家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間天窓の向こうの明かりが気になるとの訴えがあり、遮光のために天窓の一部に黒い紙を貼ると気にされなくなった。日中は疲労度により短めでもベッドでの静養を勧め回復を図っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が目的通りに作用しているか、副作用なのか認知症の進行なのか行動記録をし次回受診時に主治医に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	習字を得意とする方には事業所が祭りを出す店ののぼり旗の字を書いていただくなど、社会参加も果たせた。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と外出を予定している時は、体調管理や心理面の安定に留意し外出から戻ってからも家族から様子を聞いている。春先には近くの中央公民館で開かれている行事に参加する予定。	外出時、自力歩行の方が若干名で、車イス使用の方が大半となっている。天気の良い日にはホームの周りを散歩したり、週1回はベランダに出て外気浴を兼ねお茶を楽しんでいる。また、併設施設の外出に同乗し、買い物に出掛けたりもしている。合わせて4月のお花見にはおやつ持参で出掛け、地域活動支援センターで行われる新年会や七夕の会にも毎年参加している。更に、中央公民館で開かれる各種行事にも積極的に参加し、地域の人々との交流を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が必要なものを家族と相談しながら職員と一緒にお店に行き購入する機会を設け支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りはできていないが、季節に合わせて書道、共用空間の飾り付けに協力してもらって、家族が来所された際に見ただけのようにしている。電話については、家族からかかってきた際に話をしてもらうこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	春夏秋冬を感じられるよう施設内の飾り付けなどを工夫をしている。トイレやお風呂の場所がわかるように大きい案内版を掲示している。	天井が高く広々とした共用部分には季節が感じられる飾りつけが施されている。壁には書道や貼り絵等の利用者の作品が飾られ活動の様子が窺える。ホームの南側の庭には多くのツツジの木が植えられ季節になると見事な花に囲まれ楽しみの一つとなっている。また、広々としたベランダもあり天気の良い日には外気浴を兼ねお茶を楽しんでいる。	



社会福祉法人軽井沢町社会福祉協議会くにちゃん家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で大きなテーブルを囲み、テレビを見たり話をしたりそれぞれに時を過ごす工夫をしている。一人になりたい時は自室に誘導し過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が描いた絵や家族の写真、誕生日の時や行事の写真飾り、本人がくつろげる空間を工夫している。	広々とした各居室には洗面台とクローゼットが完備されている。持ち込みは自由で使い慣れた衣装ケース、テレビ等が持ち込まれ、壁には家族の写真や行事の際の写真が飾られ自由な生活を送っていることが窺える。暖房は土地柄、FF式ストーブが使われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人が使いやすく、洗面台に道具を配置したり、カウンターには大きな文字で日めくりカレンダーを設置している。各所には大きな文字で案内版を設置している。		